

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090500238		
法人名	特定非営利活動法人あやめ		
事業所名	グループホームあやめ		
所在地	飯田市川路2682番地		
自己評価作成日	平成30年2月26日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kanji=true&liyosyoCd=2000500238_00&ProfCd=90&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	非特定活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成30年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あやめの理念である「地域福祉の拠点」となるよう、宅老所さろんあやめ(通所)・介護相談センターあやめ(居宅)の後、グループホームあやめができたことで馴染みの利用者さんが継続した介護が受けられ、地域の人たちが安心して生活できるようになりました。同一法人内なので事業所間の連携も取りやすいです。もう一つのあやめの理念である「住み慣れた地域で最後までその人らしく住み続けられる地域づくり」が実現できるよう、個浴のお風呂にリフトも使えるような設備を導入しました。今いる利用者さんが年を重ね重度化した場合でも、できるだけ長く受け入れられるように、ソフトの面でも整備を進めていく予定です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

同一法人の「宅老所さろんあやめ」の隣に、平成29年3月に「グループホームあやめ」が、新しく立派な施設として開所してから1年が過ぎ、ようやく軌道に乗ってきている。この川路地区の「地域福祉の拠点」として、「住み慣れた地域で最後までその人らしく住み続けられる地域づくり」と言う熱い思いからすれば、いまだ端緒についたばかりであるが、次のような点から、ますます期待されくると考える。
 まず一つ目は、通所の「さろんあやめ」の利用者を継続して受け入れることができたことである。次の二つ目は、これまで法人として立ち上げてきたメンバーが、運営推進会議などを通して熱い思いを伝えてきていることである。そして三つ目は、グループホームに集まった管理者や職員が、生き生きとして利用者と一緒に活動していることである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらい ③職員の1/3くらい ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらい ③家族等の1/3くらい ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で最後までその人らしく住み続けられる」という理念に基づき、毎月職員会を通して一人ひとりの現状把握と理念に沿ったケアの見直しを行っています。	法人あやめの設立以来、「地域福祉の拠点として地域の人に愛され、信頼され、住み慣れた地域で最後までその人らしく住み続けられる地域づくりに貢献する」という理念を、グループホームも共有してきている。	グループホームの独自の理念を考えていきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を2カ月に1回実施する中で、施設での様子を伝え理解を深めています。メンバーが地域の方に声をかけて頂いています。また、「あやめ便り」を通じてグループホームの活動内容や日頃の様子を発信しています。	地区の自治会に加入して、ぎおん祭りに参加している。また、小学校の運動会や音楽会に出かけたり、小学生が人形劇を発表しに來たりしている。地域のボランティアがみえる時には、隣の宅老所「さろんあやめ」の利用者と一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は小学校での(公民館共催)人権擁護教育講座の講師を務め、高齢者との関わりについて話をしました。運営推進会議の議題としてお話を頂いたこともありました。また、「あやめ便り」を通じ認知症についても理解を深めて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、会議終了後にアンケートを実施しています。質問や疑問にあがったことは職員会で報告し、前向きに検討しています。	平成29年の6月から2ヶ月に1回、運営推進会議を開いている。地区代表(防災川路)、包括支援センターの職員、家族代表に呼びかけている。行方不明者が出てきた時の対応や、火災発生時の対応について話し合ってきた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族会や運営推進会議には、地域包括支援センターの担当者に出席して頂いております。地域の自治振興センターの所長さんや保健師さんにも運営推進会議に参加して頂いております。	運営推進会議には、包括支援センターの職員の他に、議題に関係する職員を招き、具体的な取り組みについて話し合い、連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の基準については、職員会で話し合いをしてきました。現在行動範囲の広い利用者さんがおり、個別にGPSも使用しています。玄関や窓に施錠している所がありますが、必要最小限にしています。	特にマニュアルを作っていないので、新入職員の研修資料を基に、話し合っている。玄関から自由に外に出かける利用者がいるので、一緒に散歩したりするなどして対応しているが、GPS機能を使って安全に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年の開所から多忙なため外部の研修会に参加できていない実情です。グループホームは比較的閉鎖的で、対応について不安があります。職員会で、緩やかに啓発する機会を設けています。		

グループホーム あやめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護の研修会に参加したことがあります。しかし、職員の中には理解が十分でない方もいます。現在利用されている利用者さんには、あまり心配な方はいませんが、在宅で独居の方が入所されれば必要になると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する部分については管理者が対応しています。契約や対応に困った際は、家族の方と直接連絡が取れるように携帯電話でも対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議の後に、アンケートを行っています。そこでの意見や提案については、法人の運営委員会や職員会で相談・報告しています。	法人全体で、年1回家族会を開いている。そして、その後にアンケートを実施して、法人の運営委員会や職員会で話し合ってきている。ゴミ出しの問題が出てきた時には、地域を交えて解決するように取り組んできた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会であがった議題について、法人の運営委員会で検討しています。	職員会は月1回、2時間、職員全員参加で開いている、管理者が司会をし、主任が記録をとっているが、職員から多くの意見や提案が出てきている。話し合いながら解決し、より良いグループホームをつくり上げていくという姿勢で、取り組んでいる。また、法人の運営委員会でもとり上げ、検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の会話の中で、職員から聴き取りを行っています。年1回の自己評価・面接の際には、各職員が向上心を持って就業できるような環境整備について話し合うようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	もともと異なった介護現場で働く職員が多く、高いスキルを持っていると感じています。得意分野などを活かした学習会を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に参加し、相互に情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員を信頼して頂けるようにコミュニケーションをしっかりと図り、関係づくりを行っています。利用者さんの心配事にそのつどしっかり向き合い、グループホームが居心地の良い場所になるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者さんの思いを尊重したケアを心掛けていることを伝えています。その中で、「できること」と「できないこと」があるので、正直に伝えることで信頼して頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意向を確認しています。できるだけ今までの生活が変わってしまわないよう、徐々にサービスを進めるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を果たして頂けるような場面を探し、提供すると共に、実行して下さった時は、感謝の言葉を伝え、敬意を持って接するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各利用者さんに職員の担当を設け、ご家族への連絡は担当を通してお願いしています。窓口を一本化することで、関わる職員への信頼が得られます。利用者さんとご家族の絆が深まるような支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの家族や親戚、友人や知人、近所の方々などに気軽に面会に来て頂くように伝えていきます。隣の宅老所「さろんあやめ」に来る、友人や知人との交流ができるように、演芸ボランティア会などを合同で開催しています。	家族や親戚の方の訪問や、地域の友人や知人の訪問が多くある。居室やリビングを使って、気安く過ごすように支援している。また、自宅に帰ったり、美容院に通ったりする利用者もいて、家族と連携をとりながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係性を全職員が共有するように努め、関係がうまくいくように調整役をしています。また、利用者さん同士が自然に関わりが持てるような環境を用意し、皆で楽しく過ごす時間や気の合う仲間と過ごす時間を大切にしています。		

グループホーム あやめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し、退所された利用者さんのご家族にも何度か現状をお聞きしながら、フォローさせて頂きました。ご家族の不安を少しでも軽減できるように相談したり、医療機関への連携などを図ったりして支援してきました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの希望や意向を大切に、日頃のコミュニケーションを大事にしています。利用者さんを中心とした支援が行えるよう心掛けています。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしています。	センター方式をとってはいませんが、ふだんの会話から利用者一人ひとりの希望や意向を「介護記録」に記入して、心の変化を読み取るようにしている。また、会話が通じない利用者には、家族等の関係者から情報を得たり、表情や行動から推測したりするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	かかりつけ医への通院送迎の支援をしたり、これまでの暮らしを続けていくための様々な支援(銀行でのお金の出し入れ、接骨院や床屋への行き来など)を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解して、心身状態や持てる能力が発揮できる状況を見極めながら支援に努めています。利用者さんの分かることやできることを職員会などで確認しながら、行ってもらっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人らしい暮らしを支援するため、日々の生活の中から課題を見つけ、担当を中心にモニタリングを行い、全員でカンファレンスを行っています。また、ご本人やご家族に意見や要望を聞き、それを反映し、状況に応じた介護計画を作成しています。	利用者一人ひとりに職員の担当者を決めている。利用者のアセスメントを大切にして、介護計画を作成し、担当者は毎月「サービス・支援評価表」でモニタリングして評価している。そして、担当者会で話し合い、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量や排泄状況等の他、ご本人の言葉・行動やできごとを記録しています。その他にも連絡ノートを作り、職員間で情報共有のために活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への通院送迎の支援をしたり、これまでの暮らしを続けていくための様々な支援(銀行でのお金の出し入れ、接骨院や床屋への行き来など)を行っています。		

グループホーム あやめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋や接骨院まで散歩しながら気分転換しています。職員が赤ちゃんを連れて勤務したり、小学生のお孫さんが学校帰りに寄ってくれたり、近所に住む中学生のボランティアが利用者さんが不穏になる夕方に来てくれたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時、状況報告を往診記録に残しています。利用者さん自身が薬のことや体調面の心配事などを先生から直接聞くようにしています。また、入居前からのかかりつけ医での受診をしている方に対しても、ご家族へ近況報告などを行っています。	月2回、地域の協力医が往診に来てくれ、急変時にも対応してくれるので安心できる。また、利用者それぞれのかかりつけ医があり、家族と連携して受診できるように支援している。看護師の資格を持っている職員がいるので、毎日のバイタルチェックを通して健康維持に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から利用者さんの状態を把握してしてくれる看護師がおり、日頃の健康状態や医療面での相談や報告についてスムーズに対応して頂いています。緊急時は、隣の「さろんあやめ」の看護師も対応について協力してくれます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の様子を定期的にご家族へ伺い、回復状況などの情報を頂き、退院時には速やかにご本人の状態に合わせた支援ができるように心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向や、ご本人にとってどうあったら良いかをお聞きしています。グループホームの方針や対応について理解して頂き、急変時の緊急対応についても相談しています。	これまで2名の利用者の看取りをしてきている。職員は最初の経験を踏まえ、2度目は落ち着いて対応できてきた。90歳以上の高齢の利用者が1名、介護度4で、車椅子の利用者が2名と、利用者の高齢化や重度化は避けられなくなっているため、これからの課題としてターミナルケアについて検討している。	ターミナルケアのマニュアルを作成することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会に参加し、職員会で情報提供しました。緊急時の職員訓練はまだ行っていませんが、救急車が到着するまでの応急処置や準備すべきことなど話し合っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者さんと共に防災訓練を年2回行い、運営推進会議では地域への協力をお願いしました。非常食や非常時の衣類などの確保も進めています。	7月に火災を想定した避難訓練を実施し、10月に地震を想定した避難訓練を実施した。まだ、夜間想定避難訓練は実施していない。また、この地域は、地すべりのイエローゾーンに入っているため、浸水・地すべり計画を立てる必要がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を持って日々接することを心掛けています。職員によって対応の違いがあるので、今後改善していけると良いです。	職員によって対応に違いが出てきているので、検討している。例えば、利用者の呼び方を「ちゃん」から「さん」付へ、トイレへの声かけの仕方などである。また、利用者がやりたいことや、できることを自己決定できるように支援して、利用者への敬意を表すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんのそれぞれ状態に合わせ、できるだけ自分で決めて頂くように努めています。また、各担当者がそれぞれの利用者さんの希望や好みを見極め、生活の中へ取り入れるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせるのではなく、一人ひとりの体調や状況に合わせ、個別性のある対応を心掛けるよう指導しています。できている職員もいますが、職員によって違いがあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな洋服を選んで、ご本人の気持ちに配慮した支援をしています。定期的に床屋や訪問美容を依頼し、その人らしさを保てるよう心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物時に好きな食材を選んで頂いたり、味噌汁づくり、野菜の下ごしらえ、茶碗拭きなど、個別にできることを手伝って頂いています。	グループホームでの食事についてはいろいろな考え方があるが、ここでは、利用者のケアの場面を重視して、昼食と夕食は委託にしている。朝だけは、味噌汁とご飯を中心とした食事を一緒に作っている。利用者一人ひとりに合わせてソフト食や刻み食にする場合もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べれる量や食べやすい形態を把握し、聞きながら盛り付けるようにしています。食が細くなっている方には、好きな物などを家族に聞いたり、体調に合わせて量を調節したりするなど、日々工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には個別に声かけをし、口腔ケアを行って頂いています。見守り、介助が必要な方にはできるだけご本人に行って頂き、できない部分の介助をさせて頂いています。		

グループホーム あやめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所を分かりやすいように表示しています。声かけに配慮しながら、ご本人の習慣やパターンに合わせた誘導を行っています。	利用者一人ひとりの状態に合わせて、布パンツ使用、リハビリパンツ使用、オムツ使用などに分かれています。声かけ、排泄介助にも配慮して排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、便秘予防に努めています。日頃から散歩や屋内での適度な運動、ヨーグルトの摂取などに気を付けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの好みに合わせた室温・湯温に配慮しています。ゆっくりお風呂に入りたい方は、順番やその日のメンバーに配慮し、工夫しています。入浴剤などを使いリラックスした雰囲気を中心掛けています。	1週間に2～3回くらい入浴できるようにしている。リフト浴が設置されているので、車椅子利用者の2名が利用している。一人介助で入浴できるし、リフトを片隅にしまえば、自立した利用者が広く使うことができる。入浴を楽しんでもらえるよう、室温、湯温などに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を増やし、生活リズムを整えています。午睡の習慣がない方には、その時間を利用して個別にコミュニケーションをとっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースに服薬内容明細を入れて、各職員が内容をいつでも確認できるようにしています。確実に服薬できるよう管理表へ1日分を並べ、一目で飲み忘れが確認できるようにしています。薬の変更があった場合はその後の様子などを注意深く観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さん同士が助け合い協力し合って生活を送ることで関係が良好になり、張り合いが出ると考え、支援しています。個々に得意なことや、お願いできそうな仕事を依頼し、そのつど感謝の言葉をかけるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外へ散歩やドライブなどに出かけ、気分転換をしています。また、地域の保育園や小学校での運動会や音楽会などの見学に出かけて楽しんで頂いています。食材の買い出しにも、毎回同行してもらっています。	気候の良い時には近隣を散歩したり、食材の買い出しに出かけたりしている。また、敷地の中の畑仕事もできるようになっている。これまでは、隣の宅老所との行き来が多かったが、車椅子対応の自動車もあるので、季節に合わせたドライブを増やして計画を立てて行く予定である。	

グループホーム あやめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意向を伺い、ご家族の理解を得て、少額の現金を持参して頂き、接骨院や床屋での支払いを自分でして頂くよう支援しています。利用者さんによっては、銀行にも一緒に行ってお金の出し入れを支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居前の関係を保てるように携帯電話を持参し、いつでも連絡が取れるように支援しています。グループホームへかかってきた電話に、ご本人に出てお話し頂くこともあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースに季節の分るような飾りを飾ったり、花を飾ったりして、心地よい空間づくりを目指しています。閉鎖的にならないよう明るくし、開放的な空間になるよう心掛け、親しみのある品など置いています。	北側にある玄関を歩いて行くと、天窓から明るい陽射しが入ってくる、開放的な空間が広がっている。キッチンと向き合ったダイニングが続き、南側に面してリビングがある。どこの居室からも集まりやすく、いろいろな飾りがあって、落ち着ける共用空間になっている。いろいろな施設を見学し、工夫してきたようである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外が見える窓際にソファを置き、気の合う方々でゆっくりと話ができる場所を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や家具(鏡台・たんす)など、自宅で使っていた馴染みのある物を持参して頂き、それぞれにとって居心地のよい居室になるよう心掛けています。	どの居室からもダイニングやリビングにすぐ行けるような配置になっている。そして、どの居室も東向きか南向きに窓があり、明るくなっている。それぞれの居室には、これまで使い慣れた品物や家具などが置かれ、落ち着いた空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関に手摺りを付け、安全に行き来ができるようにしました。トイレや自分の居室が分かりやすいよう目印や名前を付けています。		